

デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業 ～Xプログラム～
令和4年度選定事業中間評価 現地調査実施要領

令和7年3月14日

デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業委員会決定

1. 目的

現地調査は、デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業委員会（以下「委員会」という。）評価担当委員等が選定事業計画を実施する大学に赴き、事業責任者等との質疑応答、学生との意見交換、教育現場の視察等を行うことにより、進捗状況等を的確に把握し、評価に資することを目的とする。

2. 実施主体

実施主体は、委員会とする。

3. 実施方法

調査者が現地に赴き、書面評価に基づき事前に示す質問事項を中心に、評価項目に沿った事業計画の進捗状況等についての説明等を受けるとともに、質疑応答や事業参加学生との意見交換、教育現場の視察等を行う。なお、委員会の判断によりWEB会議とすることができるものとするが、その扱いは対面で実施した場合と同等と扱うものとする。

4. 参加者

[調査者]

- ・委員（原則評価担当委員3名程度）
- ・日本学術振興会担当者
- ・文部科学省担当者（必要に応じて同席）

[大学側対応者]

- ・全体責任者（学長等）（必要に応じて同席）
- ・事業計画責任者
- ・事業担当者
- ・学生（当該事業計画に参加している学生）
- ・関係教員・職員（必要に応じて同席）
- ・事務局（必要に応じて同席）

5. 所要時間（予定）

3時間半程度

6. 実施項目及び内容

(1) 事業責任者等からの説明・質疑応答（60分程度）

調査者は、事業計画責任者等から事前に示した質問事項への回答を中心に、評価項目に沿った事業計画の進捗状況等についての説明等を受け、その内容を基に質疑応答を行う。

(2) 学生との意見交換（60分程度）

調査者は、学生と意見交換を行い、当該事業計画による教育の成果等について確認する。その際大学側対応者においては、当該学生以外は離席するものとする。

(3) 教育現場・施設等の視察（30分程度）

調査者は、大学からの説明を受けながら教育現場や関連施設を視察し、調査を行うとともに、当該事業計画による教育や支援の現状について把握する。

(4) 講評（10分程度）

調査者は、調査終了時に講評を行う。

(5) その他、調査者が必要と判断する事項

7. 現地調査スケジュール（例）

以下のスケジュールは一例であり、実際の調査内容等により異なる。

【13時30分～16時40分を調査時間とした場合】 ※各事項には移動時間も含む。

調査時間	事項	所要時間
13:00	調査者現地到着	—
13:00～13:30	打合せ（調査者のみ）	30分
13:30～14:30	事業責任者等からの説明・質疑応答	60分
14:30～14:40	休憩	10分
14:40～15:40	事業参加学生との意見交換	60分
15:40～16:10	教育現場・施設等の視察	30分
16:10～16:30	打合せ（調査者のみ）	20分
16:30～16:40	調査者による講評	10分
16:40	現地調査終了	—

8. 現地調査実施後

(1) 調査者は、現地調査によっても明らかにならなかった点、あるいは新たに生じた不明点等がある場合、評価上の必要に応じて、大学等に対し書面による説明を求め、また追加資料を提出させることができる。

(2) 調査者は、書面評価及び現地調査を踏まえて現地調査報告書を取りまとめ、委員会に報告する。